



2025年5月15日

各 位

本社所在地 東京都墨田区横網 1-10-5
KOKUGIKAN FRONT BUILDING 3階
会社名 堀田丸正株式会社
代表者 代表取締役社長 鈴木 隆之
(コード番号 8105 東証スタンダード)
問合せ先 管理部長 矢部 和秀
(TEL 03-6824-9481)

2025年3月期通期連結業績予想数値と実績値の差異に関するお知らせ

当社は、2024年5月15日公表の2025年3月期（2024年4月1日～2025年3月31日）通期連結業績予想数値と本日公表の連結実績値につきまして、差異が生じておりますのでお知らせいたします。

記

1. 2025年3月期通期連結業績予想数値と実績値との差異(2024年4月1日～2025年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,400	68	70	59	1.05
当期実績(B)	3,098	△355	△300	△407	△7.24
増減額 (B - A)	△1,302	△423	△370	△466	
増減率 (%)	△29.5	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2024年3月期)	3,693	△190	△130	19	0.35

(差異が生じた理由)

売上高は、事業の選択と集中の一環として、当社グループのコア事業であるファッション事業ならびにマテリアル事業に経営資源を集中させてまいりました。

ファッション事業において百貨店SHOP売場でPB・ODM品を強化するとともにD2C事業への投資を継続、マテリアル事業においては、海外売上拡大に向けた人財投資、取引先の開拓、燃糸の企画開発等を推進してまいりましたが、猛暑、暖冬による季節商材の消費者の購買行動が変化し婦人洋品の売上に影響が多くなり、ファッション卸事業ならびにマテリアル国内事業において受注が伸び悩む要因となったこと、2024年12月19日に公表いたしました『当社グループの構造改革の継続実施及び特別損失計上見込みに関するお知らせ』に記載しましたとおりD2C事業及びブランド事業からの撤退により売上高が減少いたしました。

経費面では、『当社グループの構造改革の継続実施及び特別損失計上見込みに関するお知らせ』に伴う経費削減はあったものの、今期の成長戦略であるファッション事業のミセス中心とした百貨店内のSHOP拡

大及びきもの事業における百貨店での1社体制売り場展開の拡大を推進するため新たな人材投資を行いました。

営業利益においては、売上高の大幅な減少に加え、資源価格の高騰による原料などの値上げや仕入価格の上昇、円安による輸入商品の高騰の影響を受けたこと及び構造改革による影響により売上総利益が減少し、大幅な営業損失の結果となりました。

経常利益においては、貸付による受取利息収入を計上いたしますが、営業損失の影響を受け経常損失の結果となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益については、2024年12月19日に公表の『当社グループの構造改革の継続実施及び特別損失計上見込みに関するお知らせ』のとおり構造改革を実施し、構造改革費用として40百万円及び本日開示の『債権の取り立て不能又は取立遅延および特別損失（貸倒引当金繰入額）の計上に関するお知らせ』のとおり貸倒引当金繰入額57百万円を計上し、当期純損失は407百万円の結果となりました。

以上